家庭数配付

第２０号

南小だより

令和５年１１月１０日
佐世保市立吉井南小学校
校長　　中村　雅男

子どものために

「ネクタイ姿もいいね…」。１０月いっぱいでクールビズが終わった１１月はじめの日の朝、出勤時にかけられた妻からの言葉です。「まあね！」とこたえて、まんざらでもない心地よさを覚えながら車を運転しながら出勤しました。何気ない言葉で褒めたわけでもない妻だったのでしょうが、当の本人は褒められた気分を味わいながら、ちょっとした幸福を感じることができた日常のひとコマ…。「吉井南小学校でも、こんな幸せがあふれるといいなぁ…。」と感じました。

９月２９日（火）、長崎新聞の朝刊「ひとズーム」のコーナーで陣内教育長を取り上げた記事が掲載されました。ご覧になった方もいらっしゃるかと思います。その記事でもふれてあるのですが、じつは研修会において陣内教育長から「全ての授業の最後に子どもたちを褒める時間をつくってほしい」という願いをお聞きしました。「子どもたちは元来『知りたい！　やってみたい！　できるようになりたい！』という気持ちの『根っこ』の部分をもっている。その思いを叶えるべく、子どもたちの『根っこ』を育ててあげたい！　そのために子どもたちを褒めてほしい！」という願いが込められています。

吉井南小学校でも、毎時間、授業の終わり１分でもいい、３０秒でもいい、ひと言でもいいので、子どもたちのがんばりややさしさ、変容、学習の成果、友だちとの関わりなどなど…、できたことを認め、褒める時間をつくるよう全職員が一丸となって取り組んでいます。この取組は子どもたちの「根っこ」が大地を踏みしめ、そして、いつか必ず大きな実となり、花となり、子どもたちの健やかな成長につながっていくものと信じています。

私は４月から「〇〇のためにがんばろう！」という言葉を子どもたちに投げかけながら学校経営を進めています。子どもたちはこの言葉をかみしめ、学校生活のいたるところでよくがんばってくれています。人のためになるよさを感じてくれています。そして、それが「自分のため」にもなることを学んでいます。今、わたしたち大人が「子どものために」褒めてあげる出番ではないかと考えます。子どもたちを褒めることが、子どもたちの本来もっている無限大の可能性を引き出し、よりよい成長につながっていくものと信じています。「子どものために」。学校で、家庭で、地域で…。互いに手を携えながら子どもたちと向き合っていけたらと考えています。

ちょっとした褒め言葉で幸せを感じた私の恥ずかしいエピソードを冒頭で紹介させていただきましたが、こんな幸福が、学校で、家庭で、地域でふくらんでいくことを心から切に願います。